

第2回望ましい教育環境あり方検討委員会

日 時 平成28年11月18日(金)
午後3時00分
場 所 九戸村公民館 HOZホール

次 第

1 開 会 次長

2 教育長あいさつ

3 講 義

「これからの時代、子どもたちに求められる力は何にか」

岩手大学教育学部 教授 田代高章

4 協 議

九戸村の子どもたちの将来像について

5 そ の 他

6 閉 会

九戸村小学校統合・再編計画等の推移

1 総合発展計画に見られる統合計画

計画期間等	学校教育環境の整備充実	主な事業
九戸村総合発展計画 後期基本計画 18～22	・教育環境充実のため、学校統合を検討し推進していきます。	・学校統合の検討
新九戸村総合発展計画 基本計画 23～32	・教育環境充実のため、状況を見極めながら学校統合の検討を推進していきます。	・学校統合の検討
新九戸村総合発展計画 後期基本計画 28～32	・教育環境充実のため、状況を見極めながら小学校の適正規模・適正配置の検討を進めます。	・小学校適正規模・ 適正配置の検討 ・学校統合の検討

2 行政財政計画に見られる統合関係（主な年度抽出）

年度	内容 ◇改善項目 □改革の方向 ■実績見込み	備考
16	◇小学校の統合の検討 □少子化の進行と学習効果等総合的に勘案し、当面村内3小学校体制を目指し統合を検討する。	
19	◇小学校の統合（改正） □少子化の進行に伴い、教育効果の面から小学校の統合を検討する。 統合後の施設の利活用について地域の意見を取り入れながら検討する。	
20	◇小学校の統合（改正） □少子化の進行に伴い、教育効果の面から望ましい学校規模について検討を行い、地元の意向に配慮しながら、小学校の統合を検討する。 統合後の施設の利活用について地域の要望を取り入れながら検討する。	
21	◇小学校の統合（改正） □少子化の進行に伴い、教育効果の面から望ましい学校規模について検討を行い、地元の意向に配慮しながら、小学校の統合を検討する。 統合後の施設の利活用について地域の要望を取り入れながら検討する。 ■小学校の統合については当分の間予定がないものの将来につなげて検討する。	
22	□少子化の進行に伴い、教育効果の面から小学校の統合を検討する。 ■小学校の統合については、当分の間、予定はないものの将来に向けて検討する。	
24	◇小学校の統合（継続） □少子化の進行に伴い、教育効果の面から小学校の統合を検討する。 統合後の施設の利活用について地域の意見を取り入れながら検討する。 ■地元の要望があれば、統合を検討していく。	
26	◇組織機構の改善（継続） □少子化の進行に伴い、教育効果の面から小学校の統合を検討する。 統合後の施設の利活用について地域の意見を取り入れながら検討する。 ■地元の意向に配慮しながら、統合を検討していく。	
28	◇組織機構の改善（継続） □少子化の進行に伴い、教育効果の面から小学校の統合を検討する。 統合後の施設の利活用について地域の意見を取り入れながら検討する。 ■学校統廃合するかどうかは、子どもたちにとって望ましい教育環境をどのように作るかという意見を集約する中で検討する。	

3 教育を語る会の実施

【目的】

- ・日ごろ感じていることや疑問に思っていることなど何でも話してみませんか。
急速な少子化が進んでいる。忌憚のない意見をいただき、今後の教育行政に生かしていきたい。
- ・行財政計画を進めている状況。統合の問題もある。現在6校を3校という内容。18年度までを検討期間。議論を重ね、よりよい方向に。

【対象等】

- ・全小学校区（伊保内・長興寺・宇堂口・戸田・山根・江刺家）⇒・PTA会長、PTA役員、地域住民

【実施期間】

- ・平成18. 2. 17 ～ 平成19. 2. 14

【懇談内容】

主 な 意 見（統合にかかわる意見）

- 3校とは、宇・戸、山・伊・長、江という意見も出てくる。
 - 複式の解消は、地域の方の同意が得られるのか。
 - 学校の数、規模についてはどうすればいいかわからない。村の計画は、村の方針は・・・小規模校はすぐに統合か。
 - 複式が必ずしも悪いわけではない。これ以上児童数が減る場合は統合し当面3校でもよいのでは。
 - 児童数が減り存続は無理。村の方向性を具体的に示してもらいたい。
 - 複式を解消するということだが複式のいいところが見えていないのではないのか。
 - 学校がなければ地域の活動も衰退する。統合については、このままで。
 - 地元からの意見ということだが、地元では維持と言えば現状維持か。
 - 6年後は分かるが、20年後3校にしたときどうなっているのか。
 - 教委で、色々なデータを情報として出していただいて意見集約して。
 - 村でも人数が減っていくという話もあるし、結果的に子どもたちのことを考えて検討してほしい。
- ※今後意見を集約して計画を立てていく。アンケートも統合に関し実施したい。

4 小学校統合に関するアンケート調査実施

【目的】

- ・少なくとも複式学級にならない程度が適正規模の学校と考えていることから、「九戸村行政財政プログラム」の中で当面3校に統合することとしている。これは教育委員会の全くの試案であり、統合の相手校や時期について、忌憚のない意見を伺いたい。

【対象等】

- ・村内PTA会員

【実施期間】

- ・平成18. 2. 17 ～ 平成19. 2. 14

質 問 内 容	主 な 回 答
□複式学級をどう思うか。	■良い 17. 8% ■悪い 31. 4%
□学校統合についてどのように考えるか。	■賛成 28% ■おおむね賛成 51. 4% ■反対15. 7%
□統合の体制はどうか。	■1校 23. 4% ■旧村単位 46. 9%
□統合する時期	■20年度 8. 0% ■できるだけ早く 35. 0% ■完全複式まで 26. 9%

5 議会における統合関係

議会期日等	質問内容（抜き出し）	答弁内容（抜き出し）
16.12.13～17 第4回定例会	学習環境を考えるなら適正規模の学校配置が望ましいと思うが、現状をどう受け止め、どう考えているのか伺う。	最低でも複式学級にならない程度の人数はあってしかるべきである。村の行政財政大綱では、現在ある小学校を三校に統合する検討をしているところだ。
18.3.9～15 予特別委員会	整備計画にも学校統合問題に触れているが、具体的にどのような考えをもっているのか。	行財政プログラムの中では六つの小学校を三つにする提示しているが、どのような方法で進めるかは、学校関係者あるいは地域の方々と十分協議したい。また、九戸村の場合はみな新しい学校であり、跡地利用のことも踏まえながら検討したい。
19.9.4～14 第3回定例会	教育委員会も主体となり、学区民・保護者・子ども達の不安のないように進めていくのが行政のあり方だと思う。現在統合に向けてどのように進んでいるのか。また、教育委員会としてどのように取り組んでいくのか。	学校区ごとに懇談会の実施や統合に関するアンケート調査を実施したところ、学校統合については、賛成28%、おおむね賛成が51%、合わせると79%が賛成との結果が得られた。また、どのような体制がよいのかとの質問には、全村1校が23%、旧村単位3校が46%であった。・・・・・・
21.9.11 決算特別委員会	今後の学区再編や統合などの方向性は。	複式と単式があるが、複式が一概にだめだとは考えていない。複式であろうとも、小学校としての教育の成果は、生み出せるものだと考えており、統廃合については消極的な考え方でいる
24.6.18～22 第2回定例会	九戸村で1年間に生まれる子どもの数が30数人という現状を踏まえ、将来的に小学校の数はどれぐらいが適正と考えているか。	出生数からみれば、全村1校でも可能ということに数値上はなるが、地域活性化の観点から、地域の意見も尊重してこれまで対応してきたと認識している。小規模校の教育については、メリット・デメリット両面あると思う。PTAをはじめ、地域の意見を拝聴、尊重しながら、地域づくりにふさわしい適正な規模になるように考えていきたい。
25.12.2～6 第4回定例会	少子化が進む中で、小学校の今後の運営をどのように考えているのか。	当面の間、学校をなくしたくないという地域の思いを尊重しながら、小規模校ならではの教育効果を図り、学校教育、生涯学習をはじめ、行政サービスが満遍なく行き届いた活力ある村づくりにつながるように推進していく。
27.9.7～18 第5回定例会	小規模校の将来のあり方については、地域とともにある学校づくりを基本として、児童生徒の保護者や就学前の子ども達の保護者の声を大切にするとともに、地域住民の理解と協力を得るなど、丁寧な説明と十分な時間をかけての議論が行われることが望ましい。村の対応はどうか。	村としては、児童生徒数が減少し、複式学級が増える中で、子どもたちにとって望ましい教育環境をどのように整えていくか、国の教育制度改革を踏まえながら、総合教育会議を中心に地域や保護者からの意見をいただきながら検討していく。
28.3.4～3.11 第1回定例会 【村長所信】		学校運営につきましては、本村の小学校の今後の入学者数の推移から、複式学級の増、一学級の少人数化など小規模校の課題が顕在化されることが予想される。総合教育会議や望ましい教育環境在り方検討委員会（仮称）を設置し、小規模校の長所と短所や、学習指導要領の改訂など国の教育制度改革の動向や、学校規模による配置など学校運営上の課題について協議しながら、本村の子どもたちの望ましい教育環境の在り方について、中・長期的な見通しをもち、慎重・迅速に検討していく。

田野畑村・普代村教育委員会情報

1 教育環境整備にかかわる児童数の推移

教委名	協議契機時 (年度)	統合時 (年度)	現在 (年度)
田野畑村教委	6校 271名(14) ➡	1校 188名(22) ➡	155名(28)
普代村教委	4校 168名(18) ➡	1校 142名(22) ➡	110名(28)

2 教育環境整備に向けた組織と主な活動

【田野畑村教育委員会】

年・月	組織等	主な活動内容
○14 6	□田野畑村教育施設検討委員会 ・校長、PTA、保育所母の会、自治会	■少子化、校舎老朽化、就学前教育、21世紀の展望
○16 1	□検討委員会答申	■将来、小学校は、通学対策を十分考慮の上、1校に統合
○17 1	□教育委員会から村長に建議書提出	■「教育施設のあり方に関する建議書」提出 義務教育として同じ環境下での学び必要、田野畑小1校に 統合時期は、平成22年度が望ましい
○17 10	□地域懇談会①	■自治会協議会役員、就学前、小学校保護者に教委方針説明
○18 11	□地域懇談会②	■自治会住民を対象に教委方針説明
○19 5	□小学校統合に関するアンケート調査	■自治会協議会役員、就学前、小学校保護者に教委方針説明
○19 8	□小学校統合学校側準備委員会	■自治会住民を対象に村の考えを説明
○20 2	□地域懇談会③	■調査結果・統合知っている人 85.27% ・統合進めるべき 78.46%
◎22 4	□田野畑小学校開校	■文書等の整備 運営組織、学校計画、スクールバス スポ少、伝承活動等の検討 ■自治会協議会役員、就学前、小学校保護者に校名、登下校 方法、統合に伴う諸準備説明

【普代村教育委員会】

年・月	組織等	主な活動内容
○18 6	□住民アンケート(全世帯)	■統合に賛成 83% 4校を1校に 76.5%
○18 7	□再編検討委員会設置	■7月中2回開催 統合等の検討
○18 7	□再編検討委員会中間報告➡村長	■原則4校を1校。 19 鳥茂渡小統合、21、一校に統合
○18 8	□住民説明会	■教委方針 統合、統合先の学校、通学バス、校舎利用等 住民の意見を聴く
○18 11	□普代村立小学校再編(統合)計画策定	■第一期統合 普代小・鳥茂渡小
○19 5	□検討委員会①、②、③、④、⑤ PTA会長、行政連絡協議会、父母会 副村長、一般公募	■学校設置場所① ■学校設置場所② ■アンケート調査④ ■アンケート調査⑤ 意見への検討(教育施設視察)
○19 6	□教育懇談会	■統合の必要性、統合の時期、統合先、通学路の安全対策等
○19 8	□村民シンポジウム開催	■子どもたちの現状、統合への意見、望ましい統合とは・・・
○19 9	□住民アンケート(全世帯)	■統合先の学校 普代小 59.6% 堀内小 21.6% 黒崎小 1.6%
○19 11	□検討委員会最終意見提出	■「明日を拓く子らのために・時代に対応した村立小学校の あり方」と題する最終意見。
○20 3	□普代村立小学校再編統合計画策定	■普代小1校に、22年度統合 整備計画、安全対策 閉校 に向けた取組等・・・
◎22 4	□普代小学校開校	

小学校の 統合計画

この懇談会は、平成22年度に統合を予定している小学校

村議会の議決を経て「田野畑小学校」としての統合が決定します。

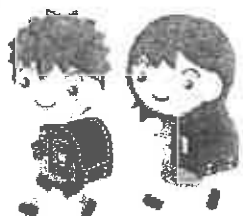
保護者の皆さんにとつて最も
 気に掛かることは、登下校
 の方法だと思います。今回の

今回の懇談会に提示した運
行計画案は、平成22年4月1
日に小中学校に在籍する児童
生徒を送迎するという想定で

教育委員会では、今回の懇談会で皆さんからいただいた希望や意見に配慮しながら、統合までの２年間で協議を重ね、運行計画を決定します。

◆問い合わせ先：教育委員会





小学校再編統合だより

No. 2

平成19年7月

普代村教育委員会

村教委では統合だよりで検討委員会、懇談会やアンケートなどの情報をその都度お知らせします。みんなで小学校再編統合について考えていきましょう。

小学校再編に率直な意見 各学区で初めての教育懇談会

村教育委員会が主催する教育懇談会が6月1日の堀内地区を初日に7月3日までの間に村内8会場で開催されました。

本村の教育全般に関し、PTAや地域の皆さんから率直な意見等を聞く場として開催された同懇談



会には、教育委員会側から熊坂教育長、道合教育委員長、各教育委員ほかが出席しました。

冒頭、道合委員長は「教育について村民の皆さんに関心を高めていただくとともに、村の教育課題について、広く保護者や地域の皆さんのご意見を、今後の教育行政に活かしていこうとするのが懇談会のねらいです。」と挨拶。懇談会は、教育全般にわたる意見交換の場ということでしたが、小学校再編が本村の今日的な教育課題として取り上げられていることもあって、どこの会場でも学校再編についての意見等がたくさん出されました。

村教育委員会では、各地区で出た意見等を集約し、小学校再編を中心にこれからの教育行政に反映させていただくこととなります。

熊坂教育長は「初めての試みとしての懇談会でしたが、地域の皆さんのきたんのない声を聞くことができました。今後の村の教育施策に反映させていきたいと思います。」と今回

の懇談会を振り返っていました。

以下、各会場ごとの懇談会で出された意見等、その主な内容は次のとおりです。

【堀内小学校区】(白井・堀内) 29名出席

- ・堀内に小学校があれば、北緯40度運動公園が近くにあるので、野球・陸上・水泳など子ども達に選択肢が増える。
- ・21年度に統合するのは目標としては良いけれども、難しいのではないかな。
- ・教育特区を利用して新しい学校を造ってほしい。
- ・納得できるような方針、説明をしてもらえれば普代になっても黒崎になってもみんな納得すると思う。
- ・子どもの教育のことを考えて、小中一貫校を検討していただきたい。

【黒崎小学校区】(黒崎) 13名出席

- ・統合は必要だと思うが、21年度という時期は非常に疑問。時期相応なのか。
- ・アンケートは数字で出る。決まってしまうがち。時期は後から付いてくるものではないか。統合年度を決めずに場所や細かいことなど色々な準備が整ってから時期を決めても良いのではないかな。
- ・色々な資料を見て決めてもらいたい。じっくり体制を整えてからにしてもらいたい。
- ・他の地区と比較しても3年で統合というのは急いでいる感じがする。後々不満を残さないために資料を準備してアンケートをとってほしい。
- ・アンケートは一つの方法であって資料でもあるけれども、ほんの一部だ。書けと言われても何を書いて良いのか解らない。
- ・他の地区の方の意見も直接聞いてみたいので全体での懇談会も考えてほしい。

(裏面へ続きます)

【普代小学校区】（鳥居・力持） 9 名出席

- ・統合の話になると津波の話が出て、話が進まなくなる。バスの話やその他の話が一向に出てこない。津波だけでなく総合的な話をしてほしい。
- ・統合について父兄は慎重に考えていると思う。私は早く統合した方が良いと思う。
- ・「統合したくない」「統合していかなければならない」考え方で意見の出し方が変わってくるのではないかな。やりたくないから意見を言うのではなくて、問題に対してどう解決していくかを話し合ってほしい。

【普代小学校区】（旭日区） 13 名出席

- ・中学校も近くにあるし、児童館も普代にあるので普代が良いのではないかな。
- ・通学の所要時間も各地区から平均的な場所。現在の所要時間より長くなれば児童の負担が増すことになるので賛成できない。
- ・津波による危険を回避するための取り組みを全ての児童、保護者、教職員が共有したうえで、現在の普代小学校を利用するのが望ましい。
- ・堀内小学校に統合すると鳥茂渡、黒崎地区の子ども達の通学時間が長い。
- ・津波が危険、と避けるのではなく、もっと積極的に危険を回避するための方策をやっていくべき。

【普代小学校区】（太田名部） 19 名出席

- ・子どもには小学校が一つになることは話している。
- ・できれば中央に新しい学校を建ててほしい。
- ・合併したときに村に学校を残すために立派な小中一貫校を建てることは重要。
- ・小学校再編検討委員会での「21年度村内小学校を1校にします」というのは目標ですよね。あまりここにこだわるとヒートアップするので、2段階とか小中一貫とか色々な角度で議論してほしい。

【普代小学校区】（中央区） 10 名出席

- ・21年度に統合するというタイムスケジュールでいくと新校舎は難しいと思う。

- ・普代小学校は40年近く過ぎている。新しい校舎を普代に建てるのが出来ないかな。
- ・現在の校舎を再利用するには、どの校舎を使うにしてもいずれかなりの金額を投じて改修しなければならないと思う。そうであれば改修するよりは新しい校舎を建てた方が良いのではないかな。
- ・村の中心にある普代地区に学校を置いた方が良い。

【普代小学校区】（上区・茂市・芦渡・萩牛） 15 名出席

- ・統合先は普代しかない、と思っているが、そのために問題点を一つ一つクリアできるような対策を考えて納得してもらうように。
- ・将来小中一貫校が出来るのであれば、統合先はなるべく経費がかからなくて子どもに負担がかからない場所が良い。
- ・小中一貫校は白井に建てれば良いと思う。

【普代小学校区】（緑区） 10 名出席

- ・スクールバスなど様々なシミュレーションをして住民に知らせればみんな統合に納得できるのではないかな。
- ・どこの地区でも統合するのは構わない。問題は場所。普代の保護者は普代小学校に来る、と思って安心している部分があると思う。普代小は村の中心にあり、児童数も一番多い。児童館も中学校も近くにあるので統合先は普代小学校が良いと思う。
- ・今の普代小学校の場所は私たちも親しみがあるし、中学校の生徒と一緒に登校できるというメリットがある。
- ・小学校と中学校が近くにあると教員の交流も簡単に出来る。

教育委員会では住民の皆様からのご意見、ご要望をお待ちしております。教育に関することならどんなことでも構いません。お気軽にお寄せください。

普代村教育委員会事務局（役場3階）

電話 35-2711

FAX 35-2712

東北・県内・近隣市町村の望ましい教育環境整備に向けた取組

1 久慈市・一戸町の状況

	環境整備に係る組織	現在の状況
久慈市	■平20.5 学校再編のための基本方針作成 10年間の計画・三期に分けての適正配置計画 意見聴取 平成30年 適正配置計画策定	■平28.7 全学区で適正規模懇談会実施 平成29年新たな計画策定作業へ
一戸町	■平16.7 一戸町学校統合計画作成 ・統合基準 原則 小学校20名 中学校30名	■平28.4 一戸中・小島谷中統合⇒一戸中 ■平29.4 一戸小・鳥越小統合予定⇒一戸小

2 ◇過小規模校から適正規模校、◆小規模校から適正規模校への状況

市町村名	統合前学校名・児童数	新設学校(学級数・児童数)	備考
◇田野畑村	①田野畑73 ②沼袋15 ③羅賀27 ④机26 ⑤浜岩泉39 ⑥鳥越36	□22.4 田野畑小8学級 188名	詳細別紙 ⇒155名
◇普代村	①普代小88 ②堀内小47 ③黒崎小12	□22.4 普代小 8学級 142名	詳細別紙 ⇒110名
◇宮古市 旧新里村	①茂市小27 ②暮目小21 ③刈屋小32 ④和井内小10	□28.4 新里小 7学級 75名	
◆花巻市 旧東和町	①土沢小164 ②成島小82 ③浮田小55 ④谷内小91 ⑤田瀬小20 ⑥小山田小88	□23.4 東和小 17学級 475名	⇒401名
◆奥州市 旧前沢町	①前沢小355 ②白鳥小43 ③上野原小54 ④白山小68 ⑤古城小112 ⑥母体小34 ⑦赤生津小46	□26.4 前沢小 27学級 716名	⇒720名

3 学校統廃合の取組と教育環境の改善

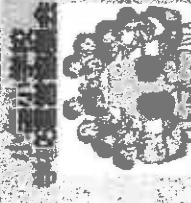
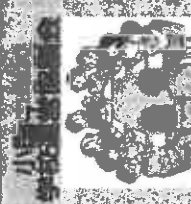
県・市町村名	特色ある取組等	備考
山形県 小国町	平13 小中高一貫教育開始 平17 小国町における教育環境のあり方に関する調査検討委員会 平26 小国小建築、中学校と同一敷地内 平20年から平26年までに随時統合1小、1中に統合 ◇小中高一貫教育 ・教員の連携 ・児童生徒の連携 ・学校と地域の連携	児童数 348名 中学生数 190名 高校生数 127名
秋田県・大仙市 旧協和町	平20 小学校 6校統合 各学年2学級規模確保 ◇新築した統合小学校前にバス停を設置 ・路線バスの拡大 隣接中学校バス利用 中学校との挨拶運動開始	児童数 188名
宮城県 色麻町	平19 小学校統廃合問題に関する報告書 平20 答申書「わが子、わが孫を通わせたい学校」「心から誇りに出来る学校」 平21 色麻町小中高一貫教育推進委員会 設立ビジョン 平26 色麻学園 色麻小学校、色麻中学校開校 ◇9年間で子供を育てる ・基礎(小1～小4)⇒ ・活用(小5～中1)⇒ 発展(中2・中3)	児童数 400名 生徒数 201名

平成28年度 小国町の教育イメージ

小国町合同学校運営協議会

- ①一貫教育の推進
- ②「生きる力」を育む学校づくり
- ③地域の教育力の活用
- ④安全で快適な教育環境の整備
- ⑤結核課題への早期対応

コミュニティ・スクール

小国小学校  小国中学校  小国高等学校 

小国町小中高一貫教育

- ①豊かな心を持ち、明日を切り拓く、想像力に富む人間の形成
- ②個性を尊重し、地域づくりに貢献しようとする人間の育成
- ③健康づくりに励み、たくましく生きる人間の育成
- ④郷土の自然や文化を愛し、国際社会に生きる人間の育成

人間力の育成

- 国際・情報
- おきな
- スタンダード
- 白森学習

小国高等学校  公立・私立保育園 
H29年度に自校校舎の増設 保小中連携調整会議

新体制への移行期間（H28～H29）

学校運営協議会委員OB協力隊

学社連携

地域教育力・体験活動推進協議会 

地域コーディネーター

学校支援活動、
放課後支援活動

白森学習支援センター 

推進協議会

地域人材等による
学習支援

おくにスポーツクラブY.U.I 

NPO法人

地域人材等による
体力向上支援

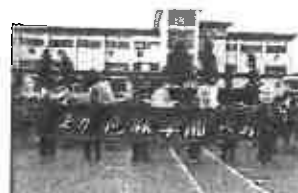
地域応援サポーター

小中一貫教育推進室だより

色麻町教育委員会教育総務課小中一貫教育推進室

(電話65-2111・有線2040)

新しい教育「小中一貫教育」がスタートして 新しい学習環境は…



＜開校記念大運動会＞

子どもたちは、自らの生活環境を知り、学び、よりよい生活空間の中で「自分探しの旅」を続け、自己を磨いています。

「子育ての基盤は、家庭環境にある。」とされています。子どもに寄り添いながら、よりよい環境(学校・家庭・地域)を創っていくことが大人としての役目と考えます。

色麻学園の子どもたちは、笑顔で「こんにちは…」と挨拶してくれます。そんな様子を見るにつけ、「新しい学校で楽しく学び、生活している。」と感じています。そして、子どもたちには、町民の皆さんが「色麻学園という教育環境」を創ってくれたことに感謝して、自分たちの学びをより確かなものにしてほしいと願っています。

「色麻学園という教育環境」は町民の皆さんのご理解と多くの方々のご助言・ご尽力があって創られたものです。その推進の中核としてご協力いただいた「小中一貫教育推進委員会」の委員の方々には、校舎建築は言うまでもなく、「小学校の校歌」「小学校の校章」「運動着」「通学路の安全」等の条件を整備していただきました。また、小中学校の教職員・保護者の方々には「小中一貫教育のあり方」「PTAの組織」等について協議を重ねていただきました。

新しい教育環境、色麻学園が開校して一年が経とうとしています。そこで、保護者の皆様に「教育環境整備に係るアンケート調査」をお願いいたしました。保護者の皆様には、あらためてご協力いただいたことに感謝申し上げます。その調査結果は次のとおりです。

・調査対象：色麻学園の保護者 ・調査期日：2月18日～23日 (単位：%)

アンケート調査項目	A	B	C	D
この1年間、お子さんは、				
①教室等での学習を楽しんでいましたか	40	47	11	2
②校庭等での運動・部活動を楽しんでいましたか	39	46	13	2
③小中合同の行事を楽しんでいましたか	35	50	13	2
④小中の交流や交友を楽しんでいましたか	32	51	13	4
⑤安全に登下校できましたか	53	40	6	1
⑥安全に通学バスを利用できましたか	58	35	5	2
保護者として、				
①新しい学習環境に満足していますか。	34	47	17	2
②小中一貫教育に期待していますか。	42	39	17	2
③通学路等が整備されていると感じていますか	24	45	26	5
④安心安全な通学バス運行と感じていますか	48	41	10	1

A：そう思う B：だいたいそう思う

C：あまりそう思わない D：全くそう思わない

いて、貴重なご意見をいただきました。

これからも、学校環境等の整備を行い、子どもたち、さらには保護者・地域の皆様が笑顔で過ごせる学校を創っていききたいものです。

今後とも、小中一貫教育の推進について、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

子どもたちは新しい学校(校舎・校庭)での学習(授業)や小中学生との交流・交友を楽しみ、学校生活を送っているようです。また、皆様もご承知のように、子どもたちは対外的にも活躍しています。

そのことから色麻学園の児童生徒としての自覚が育っています。

保護者の方々も我が子の学習環境に概ね満足し、これからの小中一貫教育、9年間の教育に期待しています。それだけ、安心安全な環境、特に通学路の整備が必要と感じています。さらに、通学バスの運行や校舎内外の施設とその活用等につ

小規模校を存続させる場合の充実

1 地理的な理由等により統合の検討対象とすることが困難な小規模校の存在

ある 20% ない 80% N=1753（全市区町村）

2 学校統合を選択しない場合

- ① 離島や山間部、豪雪地帯など、近隣の学校間の距離が遠すぎる、季節により交通事情が著しくこととなるなど、学校統合に伴いスクールバス等を導入しても安全安心な通学できないと判断される場合
- ② 学校統合を行った後に、更なる少子化の進展や地域の産業構造の変化等の事情により児童生徒数が減少するなど、安定的に通学可能な範囲で更なる学校統合を進めることが難しい場合
- ③ 同一市町村内に一つずつしか小・中学校がなく、かつ既に当該小・中学校が平地されていたり、小中一貫教育が導入されていたりするなど、当該市町村内で統合による学校規模の適正化を進めることが不可能な場合
- ④ 学校を当該地域コミュニティの存続や発展の中核的な施設と位置付け、地域を挙げてその充実を図ることを希望する場合

3 小規模校のメリット最大化策

- ① 少人数であることを生かした教育活動（外国語活動の指導や実技指導等）
- ② 個別指導・繰り返し指導の徹底等による学習内容の定着
- ③ 地域の自然・文化・産業資源等を活かした特別なカリキュラムの編成
- ④ 地域との密接なつながりを生かした校外学習・体験活動の充実等

4 小規模校のデメリット緩和策

- ① 小中一貫教育による一定の学校規模の確保
- ② 社会教育施設等との複合化による教育活動の充実
- ③ ICTの活用による他校との合同授業
- ④ 小規模校間のネットワークの構築等

5 教職員体制の整備

- ① 学校事務を共同実施し、事務の効率化を図り、子どもと向き合う時間を確保
- ② 年間行事予定や指導計画を複数間で調整し、校内研修の合同実施
- ③ 必要に応じ、各教科等の教育活動のうち効果的かつ適切なものを特定の期間に集中的に実施